



北東アジア三極戦略対話 「日米韓トラック 1.5 会議」

世界平和研究所は、2011年12月14日-15日の両日、ワシントンDCの米国平和研究所 Conference Hall に於いて、米国平和研究所(USIP)と韓国外交安保研究院 (IFANS)との共催で、「第6回北東アジア三カ国対話(6th Trilateral Dialogue in Northeast Asia Meeting)」と題する国際会議を開催した。

本会議は、国際情勢、外交、安全保障等の幅広い分野について、日米韓三か国が対話を深めることを目的として、2008年から開催されており、今回の会合は6回目となる。本会合には、日米韓三か国の外務・防衛当局の審議官・課長級、有識者約50名が参加し、①北朝鮮の挑発行動抑止の方策、②核の安全のための日米韓協力のあり方、③財政制約下の同盟ネットワークの強化、をテーマに真剣かつ活発な議論が行われた。

15日午後に行われた公開シンポジウムでは、ニューヨーク・タイムズ紙のデビッド・サンガー記者をモデレーターに、米国からハドリー元国家安全保障担当大統領補佐官、日本から外務省総合外交政策局宮島参事官、韓国からチュン大使(アジア政党国際会議共同議長)がパネリストとして参加した。シンポジウムには、日米韓マスコミ関係者など70名近い聴衆が参加し、日米韓の協調の可能性について活発かつ有益な討論がなされた。

